

# 避難所での感染症対策について

## 1 感染症予防にご協力ください

### トイレについて

- ◇トイレはきれいに使いましょう。
- ◇使用後は**便座を拭きましょう。**

### 手洗いについて

- ◇トイレのあとや食事の前には**手を洗いましょう。**
- 水が出ない場合には、アルコール消毒剤を多めに手に取り、手拭き用の紙で拭き取りましょう。

### 食べ物について

- ◇袋入りの食べ物は、手で食べ物に触れないように、袋を持って食べましょう。
- ◇おにぎりを握る時は、使い捨て手袋の使用やラップに包んで作りましょう。



### 咳エチケットを心掛けましょう

- マスクをお持ちの方は、マスク着用をお願いします。
- マスクのない方は、咳やくしゃみをする時は、ハンカチなどで口を押さえましょう。
- 手で口を押さえて咳やくしゃみをした時は、速やかに手を洗いましょう。



## 2 事前の備えについて

通常の非常持ち出し品（※15ページ参照）に、**マスクや除菌シートを加えましょう！**



岡山市では、避難所での感染防護具や体調確認のための体温計の準備に努めますが、数に限りがありますので、可能な限り**各自ご持参ください。**

ハザードマップで安全性を確認の上・・・

- 指定避難所に避難するだけでなく、災害の危険性のない場所（親族・友人・知人宅）へ分散避難することも事前に検討しましょう。
- 自宅の安全な2階以上への避難（垂直避難）も検討しましょう。※26ページも参照

# ペットの安全を守るための備え

ペットの安全を守ることができるのは飼い主だけです。  
同行避難にあたっては、飼い主自身の事前の備えが重要です。

## 1 ペットの同行避難とは

災害発生時に飼い主がペットを同行し、避難所まで安全に避難することです。指定避難所（小学校・中学校）に、ペットの同行避難のためのスペースを確保しています。ただし、**避難所の居住スペースにペットを連れて入ることはできません。**避難所に同行避難した場合、ペットは専用のスペースにつないでいただき、その世話は飼い主の責任で行ってください。また、必ずしも同行避難しなければいけないものではありません。自宅の方が安全で、かつ定期的にペットの世話ができる状況であれば、避難所に連れて行かないということも選択肢のひとつです。



## 2 事前の備えについて

### 1 健康管理

普段から健康状態に注意し、清潔に保っておきましょう。

- 狂犬病予防注射の接種、鑑札、済票の装着
- 各種混合ワクチンの接種
- ノミ、ダニ予防 など



### 2 しつけ

基本的なしつけをしましょう。避難している周りの人にとっても、ペットにとっても、ストレスを軽減することにつながります。

- ケージに入ることを嫌がらない
- 必要以上にほえない
- 決められた場所で排せつする など

### 3 ペット用の避難用品や備蓄品の確保

避難所で当面の間必要になる物資を日ごろから用意して、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

- 薬 ● ペットフード、水 ● ケージ、キャリーバッグ ● 首輪、リード
- トイレ用品 ● 食器 ● 飼い主の連絡先 ● ペットの写真 など



### 4 逸走の防止と所有者明示

災害時には、ペットと離れ離れになることがあります。保護されたとき、すぐに飼い主が分かるように、所有者明示をしましょう。

※所有者明示の方法・・・連絡先を書いた迷子札やマイクロチップ、鑑札と注射済票など

### 5 ペットの一時預け先の確保

避難所での飼育は、混乱していることに加え、多数の人やペットが集まるなど、ペットにストレスがかかる状況になります。ペットが落ち着いた環境で過ごせるよう、事前に災害時の一時預け先（親戚や友人宅、動物病院、ペットホテルなど）を確保しておきましょう。